

## 時間意識のフローティング現象

～大学生の時間意識は未来志向と過去思考のあいだで

フローティングするか？～

03601005 天田 育士 (Ikushi Amada)

群馬大学社会情報学部社会情報学科富山・情報意思決定研究室

### 概要

人には「未来志向」と「過去思考」のタイプがある。しかし、これらのタイプはその人が置かれた状況によって変化するため、ずっと同じタイプではない。人生のステージによってどちらかのタイプが強くなるのではない。水に浮く木の葉の風が吹けば漂うように、一定にならず、その時によって変化する、つまり、「フローティング」する。人は「未来志向」と「過去思考」の両方に成りえる。このことが大学生にも当てはまるかどうか考えていく。大学に入りたての1年生と大学生活を過ごしてきた4年生で、大学生活においてどれだけ時間意識において成長したかの差を比較していきながら、大学生の時間意識を検証する。

本文内容では、まず時間意識について考えていく。時間意識は常に「フローティング」するので一定になることはない。24時間という時間をどう使うかは一人一人違う。実質の時間は全ての人が同じ一日24時間しか持っていない。しかし、その時間の感じ方は置かれた状況によって長くも短くもなる。また未来と過去について考える。時間を意識できるのは一瞬の現在ではなく、希望という未来と過去という経験である。「未来志向」と「過去思考」という考え方は未来と過去それぞれの時間意識である。

実際に大学生の時間の使い方の意識を知るため、学部の1年生と4年生にアンケートに回答してもらった。アンケートは大学生活の中で主に時間を使うだろうと思われる勉強、部活動・サークル活動、アルバイトの時間の使い方をそれぞれどのように思っているか、実際の1年生、理想の4年生の時間の使い方をそれぞれ回答してもらった。そして、その結果を用いて、大学生の時間意識が「未来志向」と「過去思考」で「フローティング」するかを考えていく。

結果として、人は「未来志向」と「過去思考」のタイプを持っていて、人生のステージによってどちらかのタイプが強くなる傾向があるように思われる。また、本研究では4年生は「過去思考」の傾向が強いという結果がみられた。しかし、1年生の「未来志向」については明らかにならなかった。この原因は、半年以上も大学生生活してきたのでこの生活に慣れてしまったため、ある程度の生活サイクルができてしまい、大学生活に対する望みが薄れてきてしまったので、結果が得られなかったのではないだろうか。逆に4年生は卒業間際の時期で思い出を振り返るため、このような良い結果がみられたのだと思う。

### 1 はじめに

人が意思決定をする上で時間を意識することは重要である。なぜなら自分が生きてきた時間、すなわち経験してきたことを無視することはできない。そして、自分がこれから出会うはずの時間、将来に多くのことを望むからである。このように人には「未来志向」と「過去思考」の2つのタイプを持ち、それぞれ人生ステージにおいて合ったタイプに変化する。このタイプが出てくるのは人生の節目ではないだろうか。「未来志向」は何かをはじまろうとしている時に表れ、「過去思考」は終わりをむかえる時に表れる傾向にある。

人はもっと時間の使い方を意識した方がよいのではないだろうか。時間を意識した方がいいのは私たち大学生にも言えるはずである。大学生は学生生活の中で時間の

大切さを学べると思う。大学では自由な時間が多いため、自分のできることが増え、より時間が大切だとわかるはずである。しかし、大学生の生活を考えると、もっと時間の使い方を工夫して行動するのがよいのではないだろうか。なぜなら、ほとんどの大学生は「型にはまった生活」をしてしまっているからだ。だいたい1週間単位のサイクルで同じことをしている生活である。学校の授業、アルバイト、サークル、遊びなど常に前の週と変わらぬ日々を送っている。たしかに、生活をする上でこの生き方は楽なのだが、これでは何も生まれてこない気がする。そこに気付けば時間の大切さもわかってくるはずである。このことに気付くのは多くの場合4年生になってからではないか。卒業を意識し出すと大学生としての時間がないことに気づき、焦りだす。そして、今までのことを思い出してし、自分に足りなかったこと、で

きなかったことを精算し出す。この時には時間の大切さは身に沁みて感じている。

だから、大学1年生と4年生では時間の使い方の考え方に大きな差が出るのではないか。そこで、大学に入ってから1年生と大学生活を過ごしてきた4年生との時間の使い方の差を比較していきながら、大学生の時間意識を検証する。

前述の通り、人には「未来志向」と「過去思考」のタイプがある。しかし、これらのタイプはその人が置かれた状況によって変わるため、ずっと同じタイプではない。人生のステージによってどちらかのタイプが強くなるのではない、つまり、「フローティング」する。「フローティング」とは、水に浮く木の葉の風が吹けば漂うように、一定にならず、その時によって変化することである。だから全ての人が「未来志向」と「過去思考」の両方に成りえる。例えば、一般的なところで社会をみている。退職前の六十歳に近い人では「過去思考」にウェイトがかかるのではないだろうか。それは自分のする仕事も少なくなり終わりがみえてきているので未来が見えなくなる。自信を持てるのは今まで自分がしてきた仕事で、それは自分が歩んできた過去に自信を持っているということだ。逆に二十代前半の若い人は「未来志向」にウェイトがかかるのではないだろうか。自分の進みたい道を選び、これから社会に出ていく若い人にはこれから仕事を学び、自分のため、また社会のために働いていく。多くの障害が待ち受けているかもしれないが、そこにはやはり未来への希望であふれているはずである。

では、このような「未来志向」と「過去思考」の傾向は大学生でも言えるのか。私は言えると思う。退職前の人は卒業前の4年生、新入社員は入学したばかりの1年生と、時間の長さはかなり異なっているけれども、大学生活と社会は共に人生のステージであるので、似た立場であると言える。だから4年生は「過去思考」が強く、1年生は「未来志向」が強いのではないか。このことは4年生と1年生の置かれているステージで時間意識が異なってくると予想される。このような傾向を調べるため

に今回私は時間意識に対するアンケートを実施してみた。

以上のように本研究では1年生と4年生の「時間意識のフローティング」について研究していく。

## 2 時間意識のフローティング

### 2-1 未来志向

「未来志向」の人は、自分の未来をよりよいものにしてようとしている。未来を見据えた行動をする。それは受験や就職といった自分の生きる岐路によく意識される。その際には勉強など目的を達成するために自分が有利になることにほとんどの自分の時間を費やす。「未来志向」の意識が強いステージでは過去、現在を犠牲にしても未来がよくなるようにする。

### 2-2 過去思考

「過去思考」の人は、過去のことを常に考えてしまう。自分の経験から得た知識を踏まえ行動をする。一度起きたことを自分の経験とし、その経験から知識を得ていく。悪いことが起きた場合には二度とそのことが起こらないように原因を除くように努力する。また反対に、良いことが起きた場合にはまたそうなるように努力する。「過去思考」の意識が強い人は、過去への後悔や反省が多く、今をもっとよくしようと経験から学んでいく。

## 3 アンケートの概要

### 3-1 アンケートの手段

大学生が基本的に時間を使っていると思われる、勉強、部活動・サークル活動、アルバイトに重点を置きアンケートを作成した。それぞれ時間の使い方の項目に対して「思う・やや思う・やや思わない・思わない」の4つの度合いから最も自分に合ったものを選択する。実際に社会情報学部の学生が何に時間を費やしているのかを調査する。また、大学生活に慣れていない1年生と大学生活

に慣れた4年生との時間の使い方を比較していく。

### 3-2 アンケートの回答者

回答者は、群馬大学社会情報学部1年生90名、4年生50名である。1年生の調査日は、2006年11月30日木曜日の7・8時限目と9・10時限目の情報処理演習の時間で、授業の最後の15分を頂いてアンケートに回答してもらった。4年生はゼミごとにアンケートをお願いした。しかし、授業が不定期、もしくは全くないため、学校に来なくなっている人も少なくなかった、1年生より回収数が少なくなってしまった。

### 3-3 仮説

人には未来をよくしようと考える「未来志向」型の人間と過去を振り返りながら生きる「過去思考」型の人間との二つの型に分けられると考えている。

1年生は大学生活が始まり、自分のしたいこと、できることに期待を持っているはずである。未来に大きな期待を感じている1年生は「未来志向」型であるといえる。しかし、高校まで決められたタイム・テーブルにそって生きてきたため、自分の思い通りに時間が使えるといってもどうすればよいか手段がわからない。いきなり広がった世界に対して戸惑ってしまう。だから何をしてもよいかかわからないまま無駄に時間を使ってしまうのではないだろうか。

4年生は過去に後悔と反省をする4年生は「過去思考」型であるといえる。ほとんど進路も決まり、残された大学生活を送るのだが、残された時間を考えてみるとあまりにも短い。そのため、大学生活を振り返り、自分がしてきたことに対して反省をする。そして、進路は決まっているので何も恐れることなく、自分のしたいことができる。残された時間が短いことがわかっているのでその時間を大切にしようとする。また、大学生活を経て経験や知識などが増え成長したため、決断力、行動力があるのではないだろうか。

## 4 アンケートの分析結果

### 4-1 時間の使い方

ほとんどの人が自分の時間の使い方が、理想とは異なっていると感じている。一週間のうち現実に時間を費やしているのを見ると、勉強の時間に費やしている人は少ない。逆に趣味、遊びの時間など自分が楽しむために時間を費やしている傾向がある。1、4年生ともその傾向は同じである。

一週間のうち理想としているもので、1年生は暇な時間以外は、「思う・やや思う」の回答が集中しているので、理想としていろいろなことに時間を費やしたいのではないだろうか。4年生は勉強の時間と趣味の時間、遊びの時間の3つが「思う・やや思う」を回答している。

共通していえることは現実では勉強には時間を費やしてはいないが、理想としてはもっと勉強のために時間を使った方がよいと思っている。また、遊びの時間はうまくいっているようだ。

現実と理想が異なった理由は適当に過ごすや楽な方へいってしまうなど、自分にあまえてしまうのが原因ではないだろうか。

充実した時間は、1、4年生共に勉強の時間、部活動・サークル活動の時間、趣味の時間、遊びの時間である。そして、暇な時間は充実していないと思っている。自分自身で決めた行動の時間を充実していると感じているように思われる。

無駄な時間は、充実した時間のほぼ逆の回答結果が出ている。1、4年生共に勉強の時間、部活動・サークル活動の時間、趣味の時間、遊びの時間は無駄ではないと思っている。暇な時間は無駄だと思っている。何もしない時間は無駄であると感じている。また、充実した時間と無駄な時間の2つのアンケート結果より、アルバイトの時間も無駄ではないと思っているが、同時に充実した時間でないとも思っている。このことから充実した時間以外の時間全てが無駄な時間ではないことがわかる。しかし、アルバイトなどに時間を使わなくてはならない人

もいる。生活にはそういった必要な時間というものもある。

充実した時間は定義ができない。人それぞれ何に満足するかが異なるからである。また、欲するものなどその時の状況によっても変化するので常に一定でありえない。これは無駄な時間にも言えることである。家でゆっくりすることが無駄だという人がいればそれがなくてはならない人もいるのである。

#### 4-2 勉強の時間

1年生、4年生共に勉強時間の使い方に満足していない。ほとんどの人が勉強に対してなんらかの目的意識を持っている。

1年生は勉強が単位をとるためのものだと思っている。受験を終えただけの1年生にとって、勉強とは英語や国語、数学といった受験の勉強という認識が強いのもかもしれない。勉強はやらされるものであってつまらないものでしかなく、勉強しないと就職がうまくいかないと思っている。

4年生は勉強にやりがいを感じ、自己鍛練できるものだと思っている。そして勉強で他者から評価を受けようとも思っていない。1年生とは逆に就職のためという数値は少ない。なぜなら、各々の経験から、確かに教員採用試験や公務員試験などは勉強に直接結びつくが、就職活動では勉強は自己アピールをするための一つの手段でしかないことがわかったのかもしれない。

1年生と4年生の大きな違いは勉強に対する意欲ではないだろうか。1年生は勉強に対する意欲は全くないと言ってもよいほどだ。大学に入って自分のやりたいことに、ほとんどが遊びだと思いが、時間を費やしてしまう。しかし、先生方と話をし、大学生活を経ていくと勉強の本質がわかってきて、自分の興味のあるものが見えてくる。そして、4年生になるころには勉強が嫌なものではなくなり、興味の探求になってくる。また、机の上でするだけが勉強ではないと感じ、いろいろなことをしようと試みる。勉強が自分の知識を増やしてくれるので、自分の成長を促してくれると感じている。このこと

は表6の「⑥単位をとる」と数値はあまり高くは出なかったが表7の「③よい成績のために」での結果が1年生は「思う・やや思う」のパーセンテージが高く、4年生は少ない。このように1年生と4年生を比較してみると勉強に対する思いがわかる。

#### 4-3 部活動・サークル活動の時間

1年生、4年生共に、部活動・サークル活動における時間の使い方について満足している人はほぼ半分である。また、ほとんどの人が部活動・サークル活動に参加した経験がある。4年生はこの時期になると「していたが今はしていない」と回答する人の割合が1年生と比較して多い。また、1年生、4年生共にアンケート回答結果もほぼ同じである。部活動・サークル活動の時間はやりがいがあり、楽しく過ごせる、自己鍛練ができる時間である。他者から評価されるために行ってはいない。目的は趣味のためがほとんどで、就職のためや目的がなく参加している人は少ない。

部活動・サークル活動の入りたての1年生は、入ってみたものの自分の思っていたものと違い、行かなくなってしまう場合がある。また、活動に自分が参加してなくても何の支障もないと思いき、参加が適当になりがちである。基本的に大学生は自由なので自分がしたくなければそれまでである。しかし、学年が上がるにつれ、4年生にもなると活動での自分のポジションや責任なども出てくる。そうすると、いい加減な考えをしなくなり、部活動・サークル活動にもしっかりとした態度で挑む。

1年生と4年生では部活動・サークル活動の楽しみ方が違う。1年生はその場所に行き参加して楽しさを得る。4年生はその場をどうしたら楽しく出来るかなどを考え、飲み会などのイベントを計画することでも楽しさを得ている。

#### 4-4 アルバイトの時間

1年生、4年生共にほとんどの人がアルバイトを経験

している。しかし、1年生の20%がまだアルバイトをしたことがないと回答したのは、アルバイトをしなくてはいけないものであるように思っていた私にとって驚きであった。4年生はやりがいや楽しさ、自己鍛練など、現在の自分のためにるようにアルバイトは行われていて、将来のことを考えてアルバイトはされていない。アルバイトの目的の第1位はやはりお金のためである。アルバイトに入った当初は仕事もできない自分が嫌でこの仕事に合っていないのではと考える。環境次第では少ししたら辞めてしまう人もいるだろう。それを乗り越え、仕事に慣れていき、新しい仕事を覚えていくと、アルバイト先での責任が増えていく。そして、自分でもその仕事に対しての責任が出てくる。責任が増えてくるとアルバイトにはお金を稼ぐという理由以外にも自分なりのやりがいや楽しさも出てくるのではないのでしょうか。しかし、このように責任が増え続けてしまい、アルバイトが生活の中心になってしまっている人もいる。長く続ければ辞めるのも簡単にはできなくなるのでアルバイトの在り方難しい。

#### 4-5 その他の時間

1年生、4年生共に、理想の4年生は勉強している、趣味をしている、生活にゆとりがあると思っている。また、暇をしているとは思っていない。1年生は、理想の4年生はアルバイトをしていると思っている。4年生自身は遊んでいると思っている。

1年生、4年生共に、1年生は部活動・サークル活動をしている、アルバイトをしている、趣味をしている、遊んでいると思っている。1年生自身は暇をしていると思っている。

4年生になると授業が少なくなり、自由にできる時間が増え、生活にゆとりができる。そのため自由な時間をどのように使うかが重要になってくる。自分のやり残したことを精算する。1年生のころは何かをしたいという気持ちばかり大きくなってしまい、今していることだけでは満足できずにいて、常にフラストレーションのような

ものが身についてしまっている。計画をたてるという習慣がないため、行動を起こすことができずじまいになってしまう。

#### 4-6 考察

1年生と4年生の全体的な比較をすると、一週間のうちに現実に費やしている時間と勉強の時間が1年生と4年生で異なるという結果が出た。特に勉強の時間についてははっきりと違いが出た。大学生活で勉強に対する思いの成長は明らかにあると思える。1年生は単位や就職のため、4年生はやりがいや自己鍛練と変化が見られた。それとは反対に、無駄な時間と部活動・サークル活動の時間と1年生の姿は共通していた。部活動・サークルは大学生活を楽しくするものであって過去、未来と関係があまりないと考えられるため1年生、4年生共に同じような結果が出たのではないだろうか。

4年生の回答では勉強、部活動・サークル活動、アルバイトなど大学生活に対してやりがいを感じているという結果が出た。これは大学生活の残り少ない時間でどんなことにも一生懸命であり、1年生にはないものである。4年生はまだ学校にいたいと思いがやはりあり、「過去思考」が強いと思われた。1年生は今の楽しさを求めているという傾向があるように思われ、「未来志向」があまり出なかった。もしもこれが入学してすぐにアンケートできていたならこの結果は私が思うような結果が出たはずである。

表 1 アンケートの分析結果 1年生と4年生の回答の共通項と相違項

問題	共通	選択肢	相違	選択肢
Q1. 現実に費やしているもの			①勉強 ⑤遊び	1年：思わない 1年：思う
Q1. 理想としているもの	①勉強 ④趣味 ⑤遊び	思う 思う 思う	③アルバイト	1年：思う
Q2. 現実と理想が異なった理由	②楽な方へいく	思う	①適当 ⑧時間がない	4年：思う 1年：思う
Q3. 充実した時間	④趣味 ⑤遊び	思う 思う	①勉強 ②部活・サークル	4年：思う 1年：思う
Q4. 無駄な時間	①勉強 ②部活・サークル ③アルバイト ④趣味 ⑤遊び	思わない 思わない 思わない 思わない 思わない	⑥暇	4年：思う
Q6. 勉強をどう思うか			①やりがいがある ②楽しい ③自己鍛練 ⑤他者から評価 ⑥単位	4年：思う 1年：思わない 4年：思う 4年：思わない 1年：思う
Q7. 勉強の目的	⑤特に目的なし	思わない	①就職 ②自己鍛練	1年：思う 4年：思う
Q10. 部活・サークルをどう思うか	①やりがいがある ②楽しい ③自己鍛練	思う 思う 思う	⑤他者から評価	1年：思わない
Q11. 部活・サークルの目的	①就職 ③趣味 ④特に目的なし	思わない 思う 思わない		
Q16. アルバイトをどう思うか	③自己鍛練	思う	①やりがいがある ②楽しい	4年：思う 4年：思う
Q17. アルバイトの目的	①就職 ④お金のため ⑤特に目的なし	思わない 思う 思わない	②自己鍛練	1年：思う
Q21. ゆとりが必要な理由	①したいことをしたい ②心に余裕 ③個々の時間を楽しむ	思う 思う 思う	④忙しい	1年：思う
Q22. ゆとりが必要でない理由	③すでにゆとりはある	思う	②忙しいのが好き	1年：思わない
Q23. 理想の4年生	①勉強している ④趣味をしている ⑥ゆとりがある	思う 思う 思う	③アルバイト ⑤遊んでいる ⑥暇している	1年：思う 4年：思う 1年：思わない
Q24. 1年生の姿	②部活・サークル ③アルバイト ④趣味 ⑤遊んでいる	思う 思う 思う 思う	⑥暇している	1年：思う